

国内の1エキゾチック動物病院における愛玩用ウサギの 抗エンセファリトゾーンIgM及び IgG抗体陽性率と経時変化

志賀崇徳^{1)†} 中田真琴²⁾ 三輪恭嗣²⁾ 大澤順子³⁾ 佐竹主税³⁾
森野俊哉¹⁾ 佐々木伸雄¹⁾ 中山裕之¹⁾



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/11/76_e318/_article-char/ja

- 1) 動物医療センターPeco 獣医療研究所 (〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷3-60-7)
- 2) 東京都 開業 (みわエキゾチック動物病院 [現 日本エキゾチック動物医療センター] : 〒170-0003 豊島区駒込1-25-5)
- 3) 富士フィルム VET システムズ(株) (〒181-0013 三鷹市下連雀3-35-1 ネオ・シティ三鷹12F)

(2023年5月15日受付・2023年9月15日受理・2023年11月28日公開)

要 約

神経症状または眼症状・病変を呈し、動物病院に来院したウサギ75例について、抗エンセファリトゾーンIgM抗体、IgG抗体を間接蛍光抗体法にて測定し、うち27例は抗体価を複数回測定した。75例のうち、40.0% (30/75例) がIgM抗体陽性、89.3% (67/75例) がIgG抗体陽性であった。IgM抗体陽性の症例はすべてIgG抗体陽性であり、IgM抗体陽性かつIgG抗体陰性の症例はみられなかった。複数回測定した27例のうち、66.7% (18/27例) で抗体価の変化が認められ、37.0% (10/27例) で症状の改善が認められた。複数回のIgM及びIgG抗体測定は、免疫状態の把握に有用であると考えられたが、抗体価の変化と症状との間に明確な関連はみられなかった。

——キーワード：エンセファリトゾーン症, IgG抗体, IgM抗体, 愛玩用ウサギ(*Oryctolagus cuniculus*), 抗体陽性率.

-----日獣会誌 76, e318～e322 (2023)